

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成21年11月19日(2009.11.19)

【公表番号】特表2008-539306(P2008-539306A)

【公表日】平成20年11月13日(2008.11.13)

【年通号数】公開・登録公報2008-045

【出願番号】特願2008-508934(P2008-508934)

【国際特許分類】

C 08 J 3/22 (2006.01)

C 08 L 23/10 (2006.01)

【F I】

C 08 J 3/22 C E S

C 08 L 23/10

【手続補正書】

【提出日】平成21年10月1日(2009.10.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

物品を作る方法であつて：

0.5から70J/gの間の融解熱を有し、0より高く100より低い融点を有する半非晶質重合体を、可塑剤、および任意選択として1つ以上の添加剤と組み合わせて重合体濃縮物を製造し、この製造過程では、前記重合体濃縮物は、29mmの下端開口を有するロートを通して、49で7日間格納された後にASTM D1895のB法を用いた測定で300秒またはそれ以下で注下することができる注下可能な自由流動粒子として成形されており、この製造過程に続いて前記重合体濃縮物を1つ以上の重合体と組み合わせて物品前駆体を製造する、工程と；

前記可塑剤の引火点は200以上、流動点は-20以下、100における動粘度は4cSt以上350cSt以下で、少なくとも部分的に前記物品前駆体から前記物品を成形する工程と；

を含む方法。

【請求項2】

前記重合体濃縮物は、前記重合体濃縮物の一部を25において吸収媒表面上で24時間熟成させた後、前記吸収媒表面上で、視覚によって検出可能な前記可塑剤の損失がないことによって実証されるように、目に見える相分離を示さない、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記半非晶質重合体は、少なくとも50重量%のプロピレンを含み、75%以上のmm3連タクチシチー指數を有し、90より低い融点を有し、可塑剤は-25以下の流動点を有する、請求項1に記載の方法。

【請求項4】

前記重合体濃縮物は、0.1から95wt%の前記半非晶質重合体を含む、請求項1に記載の方法。

【請求項5】

前記重合体濃縮物は、前記重合体濃縮物の全重量を基準として、1から50重量%の半結晶性重合体をさらに含む、請求項1に記載の方法。

【請求項 6】

前記可塑剤は、 C_{20} から C_{1500} のパラフィンを含むポリアルファオレフィンオリゴマーを含む、請求項1の任意の1項に記載の方法。

【請求項 7】

前記可塑剤は、100において $5 cSt$ 以上 $350 cSt$ 以下の動粘度を有する、請求項1に記載の方法。

【請求項 8】

前記濃縮物と組み合わせ前記重合体は、ポリプロピレン、ポリエチレンおよびそれらの混合物からなる前記群から選択される、請求項1に記載の方法。

【請求項 9】

前記物品を作るために使用される1または複数の重合体が、前記濃縮物を作るために使用される前記半非晶質重合体と同じものではない、請求項1から8の任意の1項に記載の方法。

【請求項 10】

前記重合体濃縮物は、29mmの下端開口を有するロートを通して、ASTM D1895のB法を用いた測定で100秒またはそれより小さい時間内に注下することができる複数の注下可能な自由流動粒子にペレット化される、請求項1から9の任意の1項に記載の方法。

【請求項 11】

前記可塑剤は、100において $10 cSt$ 以上 $350 cSt$ 以下の動粘度を有する、請求項1から9の任意の1項に記載の方法。

【請求項 12】

前記可塑剤は、 220 以上の引火点を有する、請求項1から9の任意の1項に記載の方法。

【請求項 13】

前記可塑剤は、0.86以下の比重を有する、請求項1から9の任意の1項に記載の方法。

【請求項 14】

前記可塑剤は、-40以下の流動点を有する、請求項1から9の任意の1項に記載の方法。

【請求項 15】

前記可塑剤は、 220 以上の引火点、 $35 cSt$ 以上 $350 cSt$ 以下の100における動粘度、0.86以下の比重および-30以下の流動点を有する、請求項1に記載の方法。

【請求項 16】

前記半非晶質重合体を、100以上の融点を有する半結晶性重合体、および任意選択として1つ以上の添加物と組み合わせてキャリア組成物を製造し、次に、前記キャリア組成物を前記可塑剤と組み合わせて前記重合体濃縮物を製造し、次に、前記濃縮物を複数の自由流動粒子に成形し、次に、前記自由流動粒子を前記1つ以上の重合体と組み合わせて前記物品前駆体を成形する、請求項1に記載の方法。

【請求項 17】

前記半結晶性重合体は、インパクト共重合体である、請求項16に記載の方法。

【請求項 18】

前記濃縮物を複数の自由流動粒子に成形し、次に、前記複数の自由流動粒子を1つ以上の重合体と組み合わせ、次に、前記組み合わせ物を不織布に成形する、請求項1に記載の方法。

【請求項 19】

前記半非晶質重合体は、97から75重量%のプロピレン、3から25wt%のエチレンを含み、50J/g以下の融解熱と80%以上のmm3連タクチシチー指数とを有し、前記可塑剤は、1) 220 以上の引火点と、2) $35 cSt$ 以上 $350 cSt$ 以下の1

0 0 における動粘度または - 3 0 以下の流動点とを有し、可塑剤が少なくとも 1 0 w
t % 存在する、請求項 1 8 に記載の方法。

【請求項 2 0】

前記半非晶質重合体は 6 0 % から 8 5 % の組成分布幅指数を有するエチレン共重合体を
含む、請求項 1 、 2 、及び 4 から 1 8 に記載の方法。